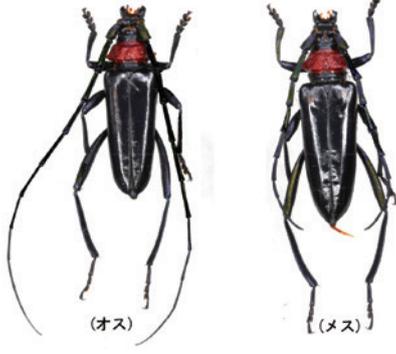


特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の

早期発見及び駆除について

1 クビアカツヤカミキリについて

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラ、モモ、ウメなどの樹木の内部を食害して弱らせ、枯らせてしまう特定外来生物です。



○クビアカツヤカミキリの成虫

体長は2.5〜4 cmほど（触角・脚は含まず）で、体は黒く光沢があり、前胸部（クビ）はソロバンの珠の形に似ていて鮮やかな赤色をしています。

○クビアカツヤカミキリの幼虫



樹木の内部を食害して弱らせます。体長は最大で5 cm程度になります。

○被害を受けた樹木



被害を受けたモモの木を伐採したところでは、幼虫による食害孔が多数見られます。食害が進むとやがて樹木は弱って枯れてしまいます。

2 被害を受けるおそれのある樹木

クビアカツヤカミキリは、主にバラ科の樹木を加害すると言われており、国内ではサクラ、モモ、ウメの被害が確認されています。被害を受けた樹木は2〜3年で枯れてしまいます。

3 クビアカツヤカミキリの見つけ方

成虫 5月中旬〜8月頃に、サクラ、モモ、ウメなど被害を受けるおそれのある樹木を見回って探します。

○幼虫

幼虫は2〜3年間、樹木の内部を食害しながら成長し、樹木を弱らせますが、その間に主に初夏から秋にかけて、樹

木に開けた排出口からフラスと木くずの混ざった「フラス」といわれる排出物を排出します。樹木の内部に幼虫がいるかどうかは、フラスの発生で判断します。（フラスを排出する昆虫はほかにもいます。判別が難しいときは、茨城県生物多様性センターまでご相談ください。）



フラスのクローズアップ

5 クビアカツヤカミキリの駆除について

○成虫

動きが素早く、また長距離を飛行します。見つけたら逃がさないように素早く捕まえて、その場でたたきつぶすか踏みつぶすなどしてください。（生きたまま持ち運ぶことは禁止されています。）

○幼虫

幼虫は、フラスの排出口から殺虫剤を注入するなどして駆除します。また、羽化して飛び出さないよう、木にはネットを掛けます。

※クビアカツヤカミキリの駆除については、茨城県生物多様性センター、または役場生活安全課までご相談ください。

○お問い合わせ

生活安全課 暮らし環境G
☎(84)3618 (直通)
茨城県生物多様性センター
☎029(301)2940

4 クビアカツヤカミキリを見つけたときは

クビアカツヤカミキリの成虫やフラスを見つけた場合は、